

船舶事故調査報告書

平成22年1月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山 本 哲 也

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年9月5日 12時45分ごろ
発生場所	和歌山県那智勝浦町 宇久井駒崎灯台から真方位259° 1.85海里付近 (概位 北緯33° 38.6′ 東経135° 56.6′)
事故調査の経過	平成21年9月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	ヨット ラビアンローズ、6トン 235-45622広島、個人所有 9.73m(Lr)×3.33m×1.66m、FRP ディーゼル機関、20.08kW、平成17年3月 船長 男性 66歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成8年5月29日 免許証交付日 平成17年11月4日 (平成23年5月28日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船底にき裂及び舵板に損傷
事故の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、船首0m、キール部船体ほぼ中央2.0m、船尾1.7mの喫水で、台風の影響などを考慮して避泊するため、那智勝浦町のマリーナ（以下「本件マリーナ」という。）に向け航行中、平成21年9月5日（土）12時45分ごろ、本件マリーナ前に設置されている海面下の防波堤（以下「潜堤」という。）に乗り揚げた。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 3～4、視界 良好 海象：波浪が少しあった。
その他の事項	潜堤は平成18年末に完成しており、当初、その周囲には、灯浮標が6個設置されていたが、台風などで流出し、事故のときには、潜堤の西側に3個しか設置されていない状況であった。 潜堤設置地点の水深は低潮時で約1m、満潮時で約2.8mであった。 過去2年間に数隻のプレジャーボートが、潜堤に接触することがあった。 本件マリーナ管理者は、潜堤の四隅に灯浮標を設置する予定である。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 事故発生時は、干潮であった。 本船は、避泊のため本件マリーナに入港しようとした際、船長が、事前に本件マリーナの水路状況を把握していなかったため、潜堤に乗り揚げたものと考えられる。 本件マリーナ管理者が、周囲に灯浮標を設置して、その存在を表示していたら、本船は潜堤の存在に気付き、乗り揚げを回避できた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が本件マリーナに入港しようとした際、船長が事前に本件マリーナの水路状況を把握していなかったため、潜堤に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	